

外 国 語

英 語（リーディング）

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和5年度共通テスト（以下「本テスト」という。）の「英語（リーディング）」の受験者は、本試験が463,985人（昨年度は480,762人）で、受験者全体の約98.4%（昨年度は約98.6%）に当たる。このことは、本テストが受験者及び学校関係者のみならず、多方面に与える影響が非常に大きいことを意味している。満点はリスニングと同じ100点で、本試験の平均点は昨年度の61.80点から下がり、53.81点であった。

本テストの問題作成方針では、平成21年告示の学習指導要領で、外国語の語彙や表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにすることを目標としていることを踏まえて、4技能5領域のうち「読むこと」の中でこれらの知識が活用できるかを評価するとともに、様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことをねらいとしている。

これらのことを踏まえ、本テストの問題について、14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

また、評価・分析するに当たり、以下の6つの資料を主に参考とした。

- (1) 高等学校学習指導要領解説（平成21年告示）外国語編・英語編
- (2) 高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）外国語編・英語編
- (3) 令和5年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針
- (4) 「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「英語表現Ⅰ」の検定教科書
- (5) 令和4年度大学入学共通テスト「英語（リーディング）」（本試験）
- (6) 令和4年度大学入学共通テスト問題評価・分析委員会報告書（本試験）

2 内 容・範 囲

本テストは、受験者が高等学校での外国語の授業（「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「英語表現Ⅰ」等）で学ぶ内容・範囲を網羅しており、高等学校段階での「読むこと」の領域の学習成果を測るものとしておおむね適切であった。日常的な話題と社会的な話題及び科学的な話題が幅広く取り上げられている。場面や状況も受験者が経験しそうなものに設定されていて、実際のコミュニケーションにおいて、英語を運用する力を測ることができるように配慮されている。学習指導要領で求められる、「主体的・対話的で深い学び」を経験してきた受験者が、高等学校段階で学習した語彙や文法の正しい知識を基に、コミュニケーションの目的に応じて英文を読み、思考力・判断力・表現力等を発揮しながら概要や要点を捉えたり情報を活用したりする内容となっている。

第1問A 複数の情報を比較することが求められ、実際的なコミュニケーションを志向した出題である。また、情報を読み取った後の行動に関するメタ的な指示を正確に理解する力も問われている。

- 第1問B 目的に応じて文章の概要を把握する力が問われている。また、要点を捉えるだけでなく、複数の情報を総合し共通点を適切に読み取る力も問われており、思考力が要求される。
- 第2問A 目的に応じて必要な情報を読み取る力が問われている。また、事実と意見を区別して捉えたり、文章の内容を簡潔な表現に言い換えてまとめたりする力も問われている。
- 第2問B 事実と意見が混在するやや入り組んだ文章から必要な情報を適切に読み取る力が問われている。また、事実と意見を区別して捉える力も問われている。
- 第3問A 一般的な助言を読んで自分の個別状況に当てはめたり、逆に文章中の個別事例を一般化して捉えたりという、抽象と具体を往還する思考力が問われている。
- 第3問B 作業工程を説明した文章を読み、目的に応じて、手順や注意点等の必要な情報を適切に読み取る力が問われている。また、文章の要点を適切に言い換える力も問われている。
- 第4問 2つの意見文を比較しながら、正確かつ適切に読み取る力が問われている。話題は受験者にとって比較的身近といえるが、contextual learningやspaced learningなどの用語を文章中の定義に従って理解することが求められている。
- 第5問 ディスカッションのメモを作成するために一人称で語られる個人的エピソードを読み、文章の概要を捉える力が問われている。安易な予測に頼らず書かれているとおりに読解する力が問われており、ナラティブ（物語文）の特徴を生かした出題である。文章の細部を正確に読み取ることと、文章全体の主旨を適切に捉えることの両方が求められている。
- 第6問A 要約して話すためのメモを作成するために、説明文を読み、文章の要点を捉える力が求められている。日常的でありつつ深く掘り下げることは少ない話題であり、事実を紹介するための数値や、事象の背景を説明する因果関係を、予断を交えず文章に忠実に読み取る必要がある。
- 第6問B プレゼンテーション用スライドにまとめるために、科学的な文章を読み、詳細な情報を正確に読み取る力が問われている。また、思考力を発揮し、明確には述べられていない事柄を書かれていることを基に推論する、新教育課程を視野に入れた出題もある。

3 分量・程度

問題作成方針に示された、「様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことをねらいとする」試験となるよう、全体的に「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」の検定教科書内で用いられる英文の分量に準じた問題文を扱っている。英文自体は、高等学校段階で学習した語彙や文法の正しい知識があれば読みやすいものであるが、限られた時間内で詳細な読み取りが求められ、選択肢の示し方によってはやや難易度が上がっている設問もある。幅広い受験者に対応する難易度の問題がバランス良く配置されている。

- 第1問A 約160語で2つの設問。2種類の演劇について箇条書きで表中に併記されている。受験者が最初に目にする問題としては、ややテキスト量が多いが、英文自体は読み取りやすい。ただしパラフレーズされた選択肢はやや難易度が高い。
- 第1問B 約280語で3つの設問。参加希望者に情報を提供し勧誘するウェブサイトとしては、テキスト量がやや多い。問1と問2では、問題文の複数の箇所に注目して共通点を見付けることが求められ、やや難易度が高い。
- 第2問A 約300語で5つの設問。ウェブサイトで新製品を紹介するのに、内容が項目分けされ、読み取りやすい工夫がある。問5については、本文中のget used toと比べると、選択肢では、受験者にややなじみの薄いと思われるget accustomed toに書き換えられており、やや難易度が高い。
- 第2問B 約300語で5つの設問。問題文、設問ともにおおむね分量・難易度は標準的であるが、問2は、問題文中の数値やパーセンテージを読み取った上で簡単な計算をする必要がある。問4は、

受験者の生活体験に関連していて迷いやすい選択肢が含まれていたり、取り組んだ内容の改善点をcould have+過去分詞を用いて表現した選択肢が含まれたりするなど、解答に迷う要因がある。問5は、問題文とは異なる順番で選択肢が示されており、やや混乱しやすい。

第3問A 約220語で2つの設問。キャンプ参加者へのアドバイスが分かりやすく提示されており、平易な問題である。全体的なテキスト量は標準的だが、問題文に対して設問が2問という設定は少ないと思われる。

第3問B 約330語で3つの設問。読み手を意識した問題文の構成で、手順を追って説明が書かれており、読み取りやすい。出来事を起こった順に並べ替える問1では、複数の箇所を細かく読み取る必要があり、やや難問である。

第4問 約590語で5つの設問。問3は、一つ目の問題文を踏まえて二つ目の問題文の内容を問う設問となっており、やや複雑である。設問の選択肢のパラフレーズが、全体的にやや難しい。

第5問 約690語で5つの設問。高校生が経験した出来事について、書き手の成長に焦点を当てながら一人称で語られており、受験者は共感を持ちながら読むことができたと思われる。問題文の分量と難易度は標準的である。問3の並べ替えでは誤った情報のダミーの選択肢が含まれたり、問5において一般的な教訓として自然である選択肢が誤答として含まれたりするなど、全体的にやや難しい。

第6問A 約630語で4つの設問。本文が3ページにわたっており、テキスト量はやや多い。問3では、パラフレーズされた選択肢の一つ一つについて、本文の対応部分を丁寧に吟味して正解を2つ選ぶことが求められ、特に難易度が高い。

第6問B 約720語で5つの設問。専門用語に戸惑う可能性はあるが、ディスコースマーカが適切に配置されたテキスト自体の難易度は標準的である。ただし、個々の設問の選択肢はいずれもやや分量が多く、限られた時間の中では負担が大きかったことが予想される。また、完成させるスライドの順番が、問題文の情報の順番と入れ替わっている部分があり、丁寧な読み取りと整理が求められている。問5で問われていたのは、科学的な文章の中で筆者がその内容をどう評価しているかを推論する問題であり、難易度は高い。

4 表現・形式

学習指導要領に示されている外国語科の目標を踏まえて、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況が設定されており、高等学校での学習の過程を意識した適切な場面設定がなされている。また、イギリス英語の表記を含めるなど、様々なテキストから出題されており、バラエティに富んだ出題形式になっている。文章表現は、学習指導要領に基づき、それぞれの設定に応じた適切なものとなっている。また、図や表は、本文や資料の中で効果的に使用され、その量も適切である。

第1問A アメリカの学校への留学中に、渡された2種類の演劇の情報が書かれたプリントを見て、自分が参加したいものを考えるという場面設定である。切り取り線を含む、表のレイアウトが工夫されており、比較しやすい。

第1問B 英語力を強化することを目的とした、日本人向けに行われるサマーキャンプのウェブサイトを読むという場面設定である。提供される3コースの内容の違いを読み取る上で、表にまとめる等のレイアウトの工夫をしても良いように思われる。

第2問A 自分に合った靴を探すために、ウェブサイトを読んでいる場面設定である。coloursなどのイギリス英語の表記が使用されている。靴を選ぶ目的が明確であり、解答する上でイメージしやすかったであろう。

第2問B 時間を効率的に使うためのアイデアを得るために、日本で学ぶ留学生が書いたレポートを読むという場面設定である。授業で指導する際の参考になるように、より実際的なレポートの形式にすると更に良い。計算を求めたり、当てはまる選択肢をまとめて検討したりするなど多様な設問形式で構成されており、工夫が見られた。

第3問A キャンプに行く前に、準備に必要と思われることについて書かれたニュースレターを読むという場面設定である。読み進める上で難解な表現はなく分かりやすい。問1は、適切な挿絵を選ばせるなど、より実際的な状況に即した出題の仕方も可能であろう。

第3問B 文化祭で作る「冒険部屋」のアイデアを得るために、イギリス人男性が書いたブログを読むという場面設定である。やや説明的な文章ではあるが、難解な表現はなく、挿絵も問題文の内容理解を促す適切なもので、配慮のある出題形式である。

第4問 教師から読むように指示された、効率的な学習法についての2つの記事を基に、次の授業で議論をするという場面設定であり、高等学校の学習過程に沿ったものとなっている。また、2つの問題文中には、図やグラフが使用され、理解を助けている。

第5問 卓球を通じて得た教訓についての内容を読み、他者に伝えるためのメモを作成するという、高等学校の授業を反映した適切な場面設定である。項目ごとにメモをまとめるという形式は、授業で指導する際の参考になる。

第6問A 収集についての記事を読み、要点をまとめたメモを用いて発表するという場面設定である。項目ごとにキーワードを適切に使用してメモを作成するという点が授業の参考になる。今後、問題文が途中で改ページされないような紙面レイアウトを望みたい。

第6問B 国際科学プレゼンテーション大会で発表を行うために、クマムシに関する資料を読んで調べたことをスライド等にまとめながら準備を行う場面設定で、高等学校での言語活動を意識した出題であるとともに、教科横断的な学びや課題探究型学習が反映されている点が評価できる。また、読み取った内容を位置関係に留意しながら図にまとめるという新しい形式の出題もあった。

5 ま と め（総括的な評価）

全体として、問題作成方針に則して、グローバル社会で活躍する人材の育成を目指した英語教育改革の方向性を反映しており、外国語の語彙や表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて活用できるかを評価するテストとして適切であったと言える。様々なテキストから概要や要点を把握したり、必要な情報を読み取ったりする問題に加え、事実と意見を整理しながら読む問題、課題の解決策を考える問題、複数の情報からそれぞれの要点や書き手の主張等を読み取り比較する問題、情報を整理してまとめたり書かれたことを基に推論したりする問題など、思考力・判断力・表現力等を測る問題となるよう工夫がなされているとともに、幅広い受験者層に対して識別力のあるテストとなっている。

題材としては、芸術鑑賞や買い物、生徒会活動、キャンプ、文化祭、部活動といった受験者にとって身近なものから、教育学や生物学といったアカデミックなものまで幅広い話題が取り上げられ、ハンドアウトやウェブサイト、レポート、ニュースレター、ブログ、記事、物語、関連資料など「本物らしさ」を意識した素材が扱われている。また、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）におけるA1からB1レベル相当で問題が作成されており、場面設定に応じてイギリス英語の表記が使用されるなど、教科の本質に照らし、必然性のある形での出題がなされている。

各大問においては、実際のコミュニケーションを想定した具体的な目的や場面、状況などが設定され、それらの場面や状況において目的を達成するためにどのように思考し、判断して読み進めて

いけばよいか設問として表されており、日々の授業づくりや言語活動を行う際の参考となる。また、高等学校における教科横断的な学びや課題探究型学習が反映された場面設定もあり、高等学校での学びに配慮され、大学入学者選抜の資料とするための工夫がなされたものと評価できる。

今年度は、平成30年告示の学習指導要領（以下「新学習指導要領」という。）が年次進行で実施された初年度であり、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進めた1年であった。新学習指導要領の中で求められる「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』」は、目的に応じて情報を精査するだけでなく、4技能5領域を統合した言語活動を通して、精査した情報を基に自分の考えを形成し、話すことや書くことで表現したり、目的や場面、状況等に応じて互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解したり、合意形成したりする過程で育成される。そういった意味で、共通テストが、概要・要点の把握や必要な情報の読み取りに留まることなく、その先にある、書き手の意図を深く捉えたり、自分なりの意見や主張を相手に応じて適切に伝えたりする力も評価するものになることを期待する。そして、他者を尊重し、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら深く思考・判断し、表現する言語活動を積み上げた学びの成果を更に測るものとなることを願う。

出題内容				設問数		配点		
問題番号	中間	解答番号	出題内容			1問当たりの配点	配点	
第1問	A	1－2	情報の読み取り	2	5	2	4	10
	B	3－5	情報の読み取り	3		2	6	
第2問	A	6－10	情報の整理	5	10	2	10	20
	B	11－15	要点の把握	5		2	10	
第3問	A	16－17	要点の把握	2	5	3	6	15
	B	18－21	時系列での内容把握	1		3*	3*	
		22－23	要点の把握	2		3	6	
第4問		24－25	情報の読み取り	2	5	3	6	16
		26－27	要点の把握	1		2 + 2	4	
		28－29	正確な内容理解	2		3	6	
第5問		30	原因の把握	1	5	3	3	15
		31	人物特性の把握	1		3	3	
		32－35	展開の把握	1		3*	3*	
		36	意図の把握	1		3	3	
		37－38	全体の理解	1		3*	3*	
第6問	A	39	内容の論理的理解	1	4	3	3	24
		40	正確な内容理解	1		3	3	
		41－42	要点の把握	1		3*	3*	
		43	要点の把握	1		3	3	
	B	44	正確な内容理解	1	5	2	2	
		45－46	正確な内容理解	1		3*	3*	
		47	正確な内容理解	1		2	2	
		48	内容の全体理解	1		2	2	
		49	内容に基づく推論	1		3	3	
合計				39		平均点	53.81 /100	

*は、全部正解の場合のみ点が与えられる。